

事業2 研究・臨床実習期間中の海外渡航支援

番号	氏名	渡航先	国・地域	渡航先での受入期間
1	K・N	台北医学大学	台湾	2024/6/3～2024/6/21

令和6年度岸本国際交流奨学金による海外活動実施報告書

医学部医学科	6 年	学籍番号 : *****	氏名 : K・N
渡航先国 : 台湾			
受入機関名 : 台北医学大学 (Wanfang Hospital)			
渡航先機関での受入期間 :			令和 6 年 6 月 3 日 ~ 令和 6 年 6 月 21 日 (19 日間)

【実習目的】

台北医学大学は台湾で最大規模の病院の一つであり、最先端の医療を行っている病院である。今回、日本の医療と海外の最先端の医療の違いを体感したいと思い、本実習に參加した。日本と他のアジア諸国の医療には多くの類似点があるが、医療制度や患者の社会的・文化的背景の点で大きな違いもあるかと感じている。本実習ではこれらの違いを体感することで、日本の医療の長所と問題点を学びたいと思う。

また、機会があれば台北医学大学の医学生とも積極的に関わりたい。海外の医学生と交流することで自分の視野を広げ、医療における価値観や考え方の違いについて理解を深めたい。

【実習内容】

台北医学大学の附属病院である Wanfang Hospital で 3 週間、産婦人科を見学した。

6/3

- ・オリエンテーション
- ・morning meeting : 妊婦検診の時期と項目についての講義
- ・子宮鏡手術見学
- ・経腔分娩見学
- ・病棟見学

6/4

- ・morning meeting : 企業による術中使用機器に関する説明
- ・外来見学

6/5

- ・morning meeting : 胎児心拍陣痛図についての講義
- ・帝王切開見学
- ・子宮鏡手術見学

- ・腹腔鏡手術見学

6/6

- ・morning meeting：カンファレンス
- ・子宮鏡手術見学
- ・膀胱鏡手術見学

6/7

- ・デブリドマン見学
- ・婦人科形成手術(腫縮小術)見学
- ・ロボット手術見学

6/10

- ・祝日

6/11

- ・morning meeting：尿力学についての講義
- ・外来見学

6/12

- ・morning meeting：カンファレンス、婦人科手術の術式についての講義
- ・ロボット手術(ATH+BSO)

6/13

- ・morning meeting：系列病院3院合同の産婦人科オンラインカンファレンス
- ・腹腔鏡手術+TVT の見学

6/14

- ・外来見学
- ・子宮鏡手術(LEEP)見学
- ・腹腔鏡シミュレーターで練習

6/17

- ・自習

6/18

- ・病棟見学
- ・緊急帝王切開見学

6/19

- ・morning meeting：腹腔鏡シミュレーターで練習
- ・外来見学

6/20

- ・morning meeting：カンファレンス
- ・子宮鏡検査見学
- ・フィードバック

【実習の成果】

今回の実習では、手術、分娩、外来の見学を通じて非常に多くの症例を経験することができました。外来や手術中の会話はすべて中国語で行われるため、苦労することも多かったですですが、先生方が丁寧に説明してくださったおかげで、各症例について深く理解することができました。以下に、今回の実習を通して感じた台湾と日本の医療の相違点について、2点述べたいと思います。

まず、台湾の医療現場では英語が日本よりも頻繁に使われていることに驚きました。台湾では、医学生が専門分野を学ぶ際に英語を交えて勉強するため、医学生や先生方は皆英語を流暢に話せます。電子カルテやカンファレンスでの発表スライドもほとんどが英語で書かれていました。日本の病院では英語を使う機会が比較的少なく、英語が話せなくても問題なく働くのが現状です。そのため、日本では医学英語の重要性に気づくことがあまりありませんでした。しかし、今回の実習を通して、情報収集や論文執筆、自分の専門知識や技術を深める上で、英語は必須であると改めて感じました。

次に、台湾の産婦人科の領域が非常に広範囲であることに感銘を受けました。台湾の産婦人科では、多くの専門的な手術や治療が行われており、例えば、膀胱鏡手術や尿失禁の治療など、女性の泌尿器問題に対しても産婦人科が担当しています。また、膣形成術などの婦人科形成手術も産婦人科が担っています。先生に伺ったところ、女性の生殖器の構造については産婦人科医が詳しいからだとおっしゃっていました。このように、台湾では産婦人科の専門範囲が非常に広く、手術のバリエーションも多岐にわたることを実感しました。

【今後の抱負】

今回、台湾に留学する機会をいただき、海外での実臨床を見学することで、医学生としての視野が大きく広がりました。この3週間で産婦人科の疾患に関する知識だけでなく、台湾の歴史背景や検診なども含めた医療制度についても学ぶことができました。台湾は歴史的に日本の影響を大きく受けており、そのため医療においても日本と類似する点が多く見受けられます。このことから、日本の医療の長所にも改めて気づかされました。また、台湾の医学生や先生方の医学英語のレベルの高さに触れたことで、医学英語へのモチベーションも一層高まりました。

今後の抱負としては、この留学経験を活かし、国際的な視野と医学知識をさらに深めたいと考えています。特に、医学英語の習得に力を入れ、グローバル化する流れに対応した診療ができるよう努めていきたいと思います。また、日本の医療の良さを再認識したため、それを基にさらに質の高い医療を提供できるよう研鑽を積みたいです。この経験を通じて学んだことを将来の医療現場で活かし、多くの患者さんに貢献できる医師を目指し、今後は一層精進していきます。

【謝辞】

今回の留学に際して、岸本先生をはじめとする岸本国際交流奨学基金関係者の方々、学生受け入れを許可してくださった台北医学大学、および指導を担当して下さった Wanfang Hospital の先生方、また、大阪大学医学科教育センターの渡部先生、河盛先生をはじめ、多くの方々にこの場を借りて深くお礼申し上げます。